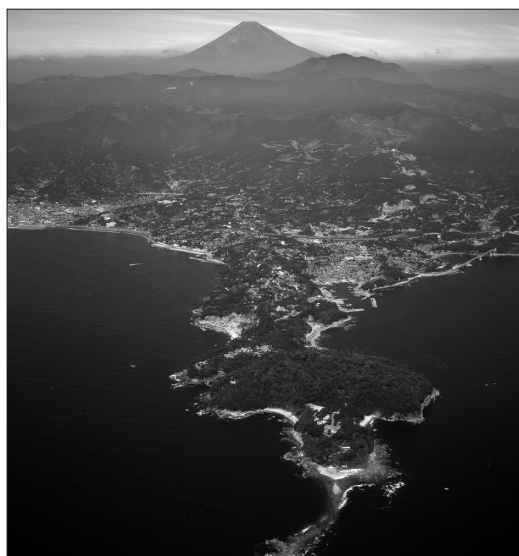


個性あふれる地域づくり



Ⅶ-1 京浜臨海部の再編整備

- 41 京浜臨海部における産業の活性化と雇用の創出
- 42 京浜臨海部における新しいまちづくり

Ⅶ-2 三浦半島地域の整備

- 43 人とみどりと歴史・文化が交流し活力ある三浦半島の整備

Ⅶ-3 県央・湘南都市圏の整備

- 44 環境共生モデル都市圏の形成

Ⅶ-4 県西地域の活性化

- 45 交流・連携による県西地域の活性化

Ⅶ-5 水源地域の総合保全整備

- 46 水環境保全対策の推進
- 47 県民との協働による水源の森林づくり
- 48 丹沢大山などの自然環境の保全としくみづくり
- 49 上流と下流の住民で支える水源地域づくり

Ⅶ-6 都市緑化ベルトの整備

- 50 都市と里山のみどりの保全と活用

Ⅶ-7 相模湾沿岸地域の保全・創造

- 51 相模湾沿岸の地域資源の保全、活用と発信

＜2005年度の取組みの概要＞

京浜臨海部の産業の活性化と雇用の創出をめざして、国際臨空産業^{※1}、ロボット関連産業、新エネルギー関連産業、エコ産業、ゲノム^{*}・バイオ^{*}関連産業などの新たな産業の創出・集積に向けた取組みを積極的に推進しました。



2005国際ロボット展の様子

- **羽田空港の再拡張・国際化に対応した新たな産業の集積** として、国や川崎市と連携して、交流拠点の形成に向けた企業などへの働きかけを行うとともに、国際物流機能の強化・高度化に向けた調査・検討を行いました。
- **ロボット関連産業の創出・集積** として、ロボット関連技術の実用化、事業化を支援する活動拠点の整備に向けた調査・検討や、県内のロボット関連の企業、研究機関などと共同したビジネス展への出展のほか、ベンチャーの起業や事業化を支援するワークショップを開催しました。
- **新エネルギーの活用促進** として、バイオマス^{*}からメタンガスを抽出し燃料として供給するビジネスモデルの事業化可能性に関する調査検討や、DME^{*}の利用促進に向けたモデル事業を実施しました。

【目標】京浜臨海部の従業者数^{※2} (単年度※)

産業の活性化や新しいまちづくりの取組みにより、2001年の従業者数(「事業所・企業統計調査^{※3}」381,423人)を2006年の時点で2割程度(450,000人)増やすことを目標値として設定しました。

目標の達成度は、2006年の従業者数により把握します。

(目標)		(単位:人)
2004	2005	2006
-	-	450,000



京浜臨海部は、横浜市と川崎市にまたがる面積約6,100haの地域で、埋め立てられた時期などにより、内陸側から、既成市街地、臨海部第1層、臨海部第2層、臨海部第3層に区分されます。

※1 国際臨空産業…国際空港周辺に立地することで優位性を発揮する産業
 ※2 京浜臨海部の従業者数…京浜3区(横浜市鶴見区、神奈川県、川崎市川崎区)の従業者数
 ※3 事業所・企業統計調査…5年に1回行われる調査です。(基準の期日は調査年の10月1日現在)

<分析>

- ・ 2001年の京浜臨海部地域の従業者数は、381,423人（1996年の423,399人と比べ5年間で9.9%減少）、また、事業所数は、32,173所（1996年から2001年の5年間で10.4%減少）となっており、産業構造の転換に伴う企業の再構築や生産機能の県外や海外への移転などにより、産業活力の低下が懸念されています。
- ・ そうした中で、羽田空港の再拡張・国際化の推進、基幹的広域防災拠点*の整備、都市再生緊急整備地域の整備促進、ロボット、ゲノム・バイオなどの新たな産業の創出など、京浜臨海部の再編整備に向けた取組みが進みつつあります。
- ・ 特に、2009年に予定されている羽田空港の再拡張・国際化を契機として、新たに生じる人、モノ、情報の流れを神奈川側に誘導するため、多摩川を渡る連絡路などを整備するとともに、羽田空港の対岸の地域に空港関連施設や臨空産業の集積を図ろうとする神奈川口構想*については、国や関係自治体の間で、具体化に向けた検討を進めています。
- ・ これらの取組みをさらに着実に進め、既存産業の活性化や新たな産業の創出・集積により、京浜臨海部の産業の活性化を進め、雇用の創出を図っていくことが求められています。

<課題>

羽田空港の再拡張・国際化に対応した臨空産業やロボット関連産業、新エネルギー関連産業、エコ産業、ゲノム・バイオ関連産業など新たな産業の創出・集積を進めるとともに、規制緩和の促進や企業への助成を通じて、立地企業の再投資や企業立地の促進を図っていくことが必要です。

～県民ミーツ・意見などへの対応～

- ★ 「ロボット関連産業の創出・集積に関して、県内大手企業の生産技術部門のOBの活用が有効である。」とのご意見をいただきましたが、中小企業などにおけるロボット分野への参入を促進するために必要となる従業者の育成や人材の確保に関しては、県としても様々な取組みを行っていますので、これらの取組みを活用しながら、今後とも、ロボット関連産業の創出・集積に取り組んでいきます。

<今後の対応方向>

- **羽田空港の再拡張・国際化に対応した新たな産業の集積** として、民間や川崎市のまちづくりの取組みと連携し、企業などへの働きかけや支援を積極的に行うなど、臨空産業の集積促進に向けた取組みを進めます。
- **ロボット関連産業の創出・集積** として、京浜臨海部をはじめ県内のロボット関連企業、研究機関やユーザーで構成される産業化のためのネットワークづくりを進めるなど、ロボット関連産業創出の推進体制を整え、京浜臨海部を中心にロボット関連産業の創出・集積を図ります。
- **新エネルギーの活用促進** として、京浜臨海部に立地するエネルギー関連企業を中心に、事業化に向けた取組みを進めます。

◆京浜臨海部活性推進課ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/keihin/ken/keihinHP/index.html>

◆神奈川口ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/keihin/kg/index.html>

◆ようこそ京浜臨海部へ（京浜臨海部再編整備協議会）

<http://www.keihin.ne.jp/>

<2005年度の取組みの概要>

京浜臨海部の産業を支える新しいまちづくりをめざし、羽田空港の再拡張・国際化の早期実現に向けた国への働きかけを行うとともに、羽田空港への連絡路に係る関係機関との調整などを行いました。

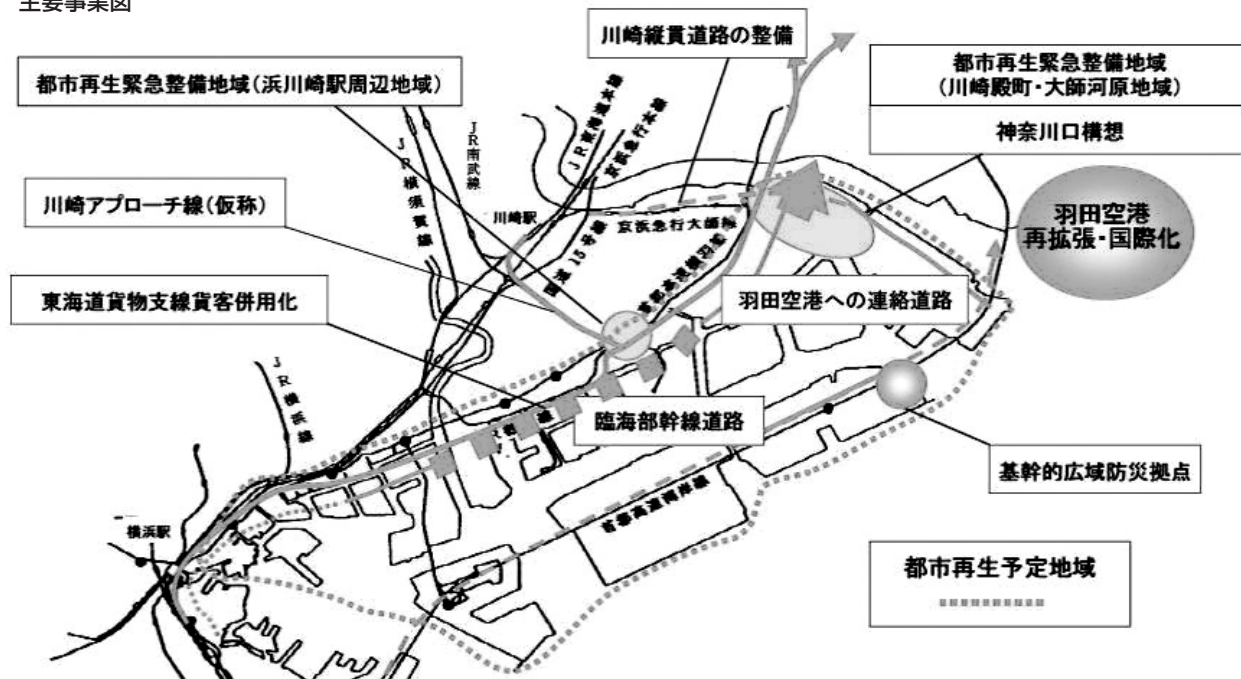
- **道路網の整備促進** として、羽田空港への連絡路について、国や関係自治体などで構成する京浜臨海部幹線道路網整備検討会議において、その必要性についての共通認識のもと、引き続き、幅広くルート・構造の検討を進めることを確認するとともに、川崎縦貫道路（I期）の整備を促進しました。
- **鉄道網の整備促進** として、東海道貨物支線の貨客併用化について、学識経験者、鉄道事業者、国、関係自治体などで構成する東海道貨物支線貨客併用化検討会において、段階的な事業の進め方について研究しました。
- **新たなまちづくり拠点の整備促進** として、川崎殿町・大師河原地域を含む塩浜周辺地区の土地利用に関する基本的事項として、土地利用のゾーニングと導入機能について検討・協議し、その結果を公表しました。
- **羽田空港の再拡張・国際化の推進** として、八都府市首脳会議や横浜市、川崎市、県による研究会の場も活用しながら、神奈川や首都圏における羽田空港のあり方などについて研究を行い、再拡張・国際化の推進に向けた国への働きかけを行いました。



羽田空港と神奈川口対象エリア

【目標】 川崎縦貫道路や臨海部幹線道路、羽田空港への連絡路などの道路網の整備、東海道貨物支線の貨客併用化などの鉄道網の整備、都市再生緊急整備地域などの拠点整備により、産業を支える新しいまちづくりをめざします。

主要事業図



<分析>

- ・ 京浜臨海部では、骨格となる道路や域内を連絡する道路が不足していることに加え、鉄道不便地域が多いことから、産業道路や国道409号などの混雑度が高くなっており、円滑な経済活動の障害となるとともに、大気汚染などの沿道環境に影響を及ぼしています。このような道路状況を改善するためには、道路網や鉄道網の整備を促進することが必要です。
- ・ また、2009年に予定されている羽田空港の再拡張・国際化により、今後、新たに生じる人、モノ、情報の流れを神奈川側に誘導するための羽田空港への連絡路などの道路網や鉄道網の整備を進めるとともに、遊休地などの土地利用転換などによる新たなまちづくり拠点の整備をさらに進めることで、京浜臨海部のみならず本県の経済の活性化に結びつけることが必要です。

<課題>

羽田空港への連絡路をはじめとした道路網や東海道貨物支線の貨客併用化などの鉄道網の整備促進に引き続き取り組む必要があります。

また、京浜臨海部に指定されている都市再生緊急整備地域を中心に、整備方策の策定に参画するなど、新たなまちづくり拠点の整備に取り組む必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 羽田空港の再拡張・国際化に対応し、神奈川方面から空港へのアクセスの向上などが求められていることから、空港への連絡路の整備促進などについて、関係機関と、その必要性の認識の共有を図り、道路整備に向けた調査・検討を行っています。

<今後の対応方向>

- **道路網の整備促進** として、羽田空港への連絡路について、これまでの取組みを踏まえ、引き続き、国や東京都などの関係機関と検討を進めていくとともに、引き続き、川崎縦貫道路（I期）の整備を促進します。
- **鉄道網の整備促進** として、東海道貨物支線の貨客併用化について、これまでの取組みを踏まえ、引き続き、東海道貨物支線貨客併用化検討会において研究を進めていきます。
- **新たなまちづくり拠点の整備促進** として、周辺の都市基盤の整備に係る検討状況などを考慮しつつ、塩浜周辺地区のまちづくりに向けた検討などを進めていきます。
- **羽田空港の再拡張・国際化の推進** として、時期を逸することなく、横浜市や川崎市とも連携し、羽田空港の国際化が神奈川や首都圏にとってより望ましい形で実現されるよう、引き続き、国に対して積極的に働きかけていきます。

◆京浜臨海部活性推進課ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/keihin/ken/keihinHP/index.html>

◆神奈川口ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/keihin/kg/index.html>

◆ようこそ京浜臨海部へ（京浜臨海部再編整備協議会）

<http://www.keihin.ne.jp/>

＜2005年度の取組みの概要＞

2005年度は、三浦半島公園圏構想の策定に向けた検討を行うため、前年度に引き続き、関係市町と県からなる検討会を開催するとともに、有識者や事業者、NPO*の代表者などからなる懇談会を開催し、さらに県民参加を図ることにより、三浦半島公園圏構想を策定しました。



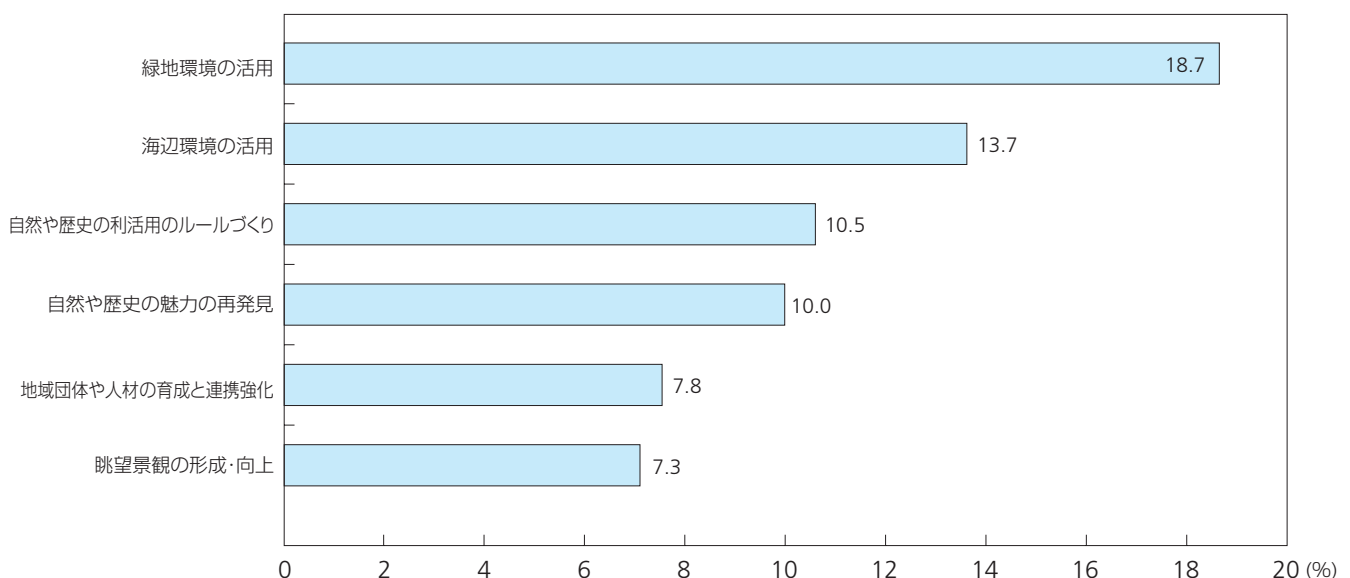
小網代の森

- **広範な連携による三浦半島のみどりの保全と活用** として、三浦半島公園圏構想を策定するとともに、地域制緑地*の指定に向けた調査などを実施しました。
- **小網代の森の保全** として、首都圏近郊緑地保全法に基づく近郊緑地保全区域の指定や土地の買入や借入などにより、保全を進めました。
- **三浦半島の地域連携の強化** として、三浦縦貫道路(Ⅱ期)の整備では、先行事業区間である1.9kmの整備に取り組むとともに、三崎漁港の施設整備では、宮川フィッシャリーナ*の整備、諸磯地区や二町谷地区のしゅんせつ、城ヶ島地区の消波工の整備などに取り組みました。
- **「うるおい」「にぎわい」「活力」のある地域づくり** として、三浦半島公園圏構想に位置づけられた5年間の事業プログラムであるリーディングプロジェクトを策定しました。

【目標】「うるおい」「にぎわい」「活力」ある三浦半島の創造をめざした地域づくりを進めるとともに、貴重なみどりを保全するための取組みなどを進めます。

上記の目標の実現をめざす三浦半島公園圏構想の策定に関連して、シンポジウム「三浦半島公園圏構想の実現をめざして」を開催しました。そこで実施したアンケートの結果の一部は次のとおりとなっています。

三浦半島の特徴を地域づくりに生かすために取り組むべき課題(回答数の多いベスト6)



<分析>

- ・ 三浦半島は、三方を海に囲まれ、変化に富んだ海岸線や、多摩丘陵から続く首都圏でも貴重なまとまったみどりが残る気候温暖、風光明媚な地域です。また、古都鎌倉をはじめとした歴史的文化遺産を有するとともに、農林水産業などの多様な産業基盤を有し、首都圏の食の供給地ともなっています。
- ・ 一方で、都市化の進展に伴って貴重なみどりは失われてきています。神奈川県国土利用計画土地統計資料によると、三浦半島地域の森林面積は1974年には8,342haありましたが、1989年には7,108ha、2004年には6,758haと年々減少しています。
- ・ また、みどりの減少以外にも、休日の慢性的な道路の渋滞や半島南部から東京、横浜方面への交通アクセスが悪いこと、高齢化の進展、産業の停滞による地域活力の低下など、三浦半島地域は様々な課題を抱えています。

<課題>

三浦半島地域においては、豊かなみどりや貴重な歴史的文化遺産を守りつつ、交通網など都市基盤の整備や産業基盤など地域の活性化にも配慮した取組みが求められています。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「自然と観光、交通の調和は相反する面もあるので、バランス感覚がないと取り返しの付かないことになる恐れがある」というご意見をいただきましたが、県としては引き続き、三浦半島の貴重なみどりの保全・活用を図るとともに、その他の取組みにつきましても、みどりの保全などに配慮しながら進めていきます。

<今後の対応方向>

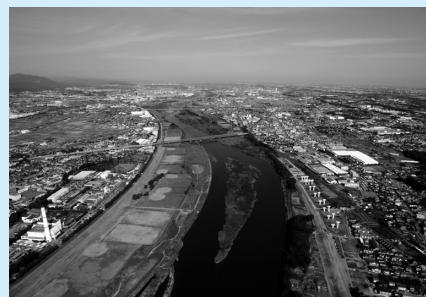
- **三浦半島国営公園の誘致** として、国への要望を引き続き行うとともに、広報に努めます。
- **広範な連携による三浦半島のみどりの保全と活用** として、三浦半島公園圏構想を推進するとともに、地域制緑地の指定に向けた調査などを実施します。
- **小網代の森の保全** として、2005年に指定を受けた近郊緑地保全区域の保全を推進するため、土地の買入や借入などを進めます。
- **三浦半島の地域連携の強化** として、三浦縦貫道路（Ⅱ期）の整備では、先行事業区間である1.9kmの整備に引き続き取り組むとともに、三崎漁港の施設整備では、本港地区の岸壁整備、城ヶ島地区の消波工の整備などに取り組めます。
- **「うるおい」「にぎわい」「活力」のある地域づくり** として、三浦半島公園圏構想に位置づけられたリーディングプロジェクトを推進します。

◆三浦半島公園圏構想について

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seityo/miura/kousou.htm>

＜2005年度の取組みの概要＞

環境共生モデル都市圏の形成として、県央・湘南都市圏において、質の高い生活や新たな産業を創造するネットワーク型都市圏の形成に向けた取組みを進めるとともに、豊かな自然環境を生かした環境負荷の少ない都市づくりを進めるなど、環境と共生する都市圏の形成をめざし、取り組みました。

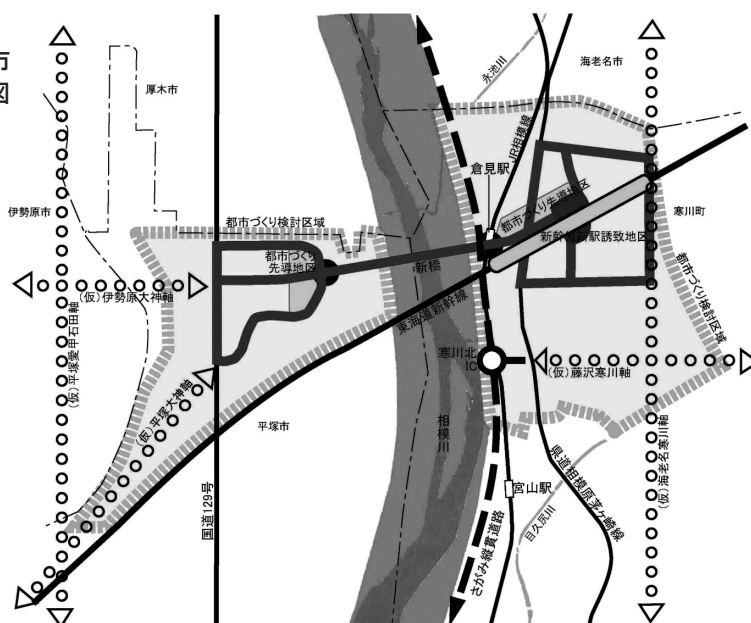


新幹線新駅誘致地区周辺と相模川

- **東海道新幹線新駅の誘致** として、寒川町倉見地区への新駅実現に向けて、JR東海などへの要望活動を行うとともに、幅広い広報活動に取り組みました。
- **交流連携を支える道路の整備** として、さがみ縦貫道路などの自動車専用道路の整備を促進しました。
- **環境共生モデル都市ツインシティの整備** として、都市計画決定をめざし、平塚市大神地区と寒川町倉見地区のまちづくりや、両地区を結ぶ新橋についての調査などを進めるとともに、環境共生モデル都市にふさわしい施設などの調査検討を進めました。
- **環境共生型プロジェクトの促進** として、県央・湘南都市圏環境共生モデル都市づくり推進要綱に基づき、今泉名水桜公園整備事業(秦野市)、花と緑のふれあいセンター(仮称)施設整備・運営等事業(平塚市)の2件について、環境共生協定を締結しました。(進捗率は100.0%)

- 【目標】
- 骨格となる自動車専用道路の整備促進や公共交通機関の整備、機能強化に向けた検討、調査を行います。
 - 都市圏の交流連携の拠点となり、環境共生のモデル都市となるツインシティの整備に向けて、まちづくりや新橋などの都市計画決定をめざします。
こうしたツインシティ整備の具体的な進展を示す中で、東海道新幹線新駅の誘致活動を強化し、新駅の実現をめざします。

環境共生モデル都市
ツインシティ概念図



<分析>

- ・ 県央・湘南都市圏は、首都圏中央連絡自動車道や第二東名高速道路などの骨格となる交通網の整備が進むことにより、首都圏における交通の要衝となり、東京周辺の諸都市などとの活発な交流・連携が期待されます。
- ・ 今後、都市圏の一層の発展を図るためには、相模川を挟み、東西方向及び南北方向の都市間を結ぶ交通基盤が弱いことから、都市間の連携を促進する交通基盤の整備、強化を推進するとともに、人や物の新たな流れを生み出す、広域的な交流・連携の拠点づくりが不可欠です。
- ・ 平成16年度県民ニーズ調査によると、「今後10年くらいの間に神奈川県は、道路や鉄道交通網がさらに整備され、通勤・通学や買物など日常生活の利便性がよくなっている」と答えた人の割合は、県央、湘南地域で54.3%となっており、「そう思わない」と答えた人の割合の39.8%より高く、地域の期待が高まっています。

<課題>

今後も、利便性の高い、活力ある都市圏の実現を図るため、さがみ縦貫道路の整備や、ツインシティのまちづくりなどについて一層の事業推進を図る必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ ツインシティの都市づくりについて、企業や大学の視点から、意見や提言をいただく場として、2004年12月に、ツインシティ整備に係る企業・大学懇談会を設立し、2005年度は、ツインシティに望まれる立地施設や都市機能、都市基盤などについて意見交換を行いました。今後は、いただいた意見を取りまとめ、まちづくりに反映していきます。

<今後の対応方向>

- **東海道新幹線新駅の誘致** として、引き続き、JR東海などへの要望活動や広報活動に積極的に取り組むとともに、新駅関連施設の調査を行います。
- **リニア中央新幹線の建設促進と駅誘致** として、引き続き、国及びJR東海などへの要望活動や広報活動に積極的に取り組みます。
- **JR相模線複線化の促進** として、国及びJR東日本などへの要望活動や広報活動に積極的に取り組むとともに、早期事業化をめざした検討を行います。
- **交流連携を支える道路の整備** として、引き続き、さがみ縦貫道路などの自動車専用道路の整備を促進します。
- **環境共生モデル都市ツインシティの整備** として、都市計画決定に向けて、まちづくりの事業調査などを平塚市、寒川町と共同で実施するとともに、環境共生モデル都市にふさわしい施設などの調査検討を進めます。また、新橋やツインシティへの交通アクセスの整備について調査検討を行います。
- **環境共生型プロジェクトの促進** として、環境共生協定の締結に向けて、都市圏における都市づくり事業の事業者と協議を進めるとともに、制度の一層の普及を図ります。

◆環境と共生する都市づくりホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/kankyoku-kyousei/index.htm>

＜2005年度の取組みの概要＞

近隣の都県との活発な交流により、地域資源を生かした魅力ある地域づくりが進むよう、山梨・静岡・神奈川の三県及び圏域市町村と県域を越えた連携事業を展開しました。また、花と水の名所などにおける新たな観光・交流スポット整備への支援やネットワークセンターの設置などを行いました。さらに、交流・回遊性を高めるため、広域的な幹線道路網の整備や地域分断・交通のボトルネック*の解消のための橋りょうの整備や、小田原駅周辺のまちづくりなど、人々のにぎわいや集いの場となる交流拠点の整備を進めました。

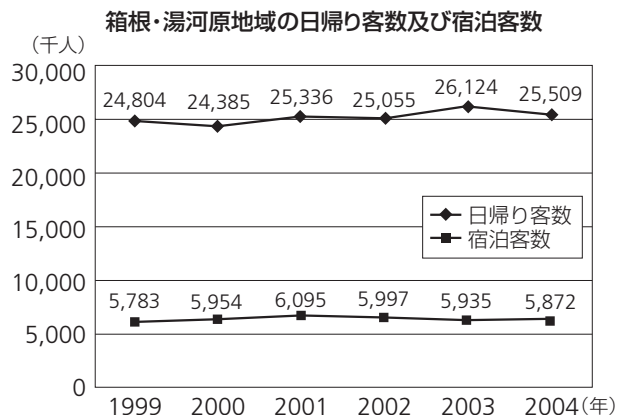
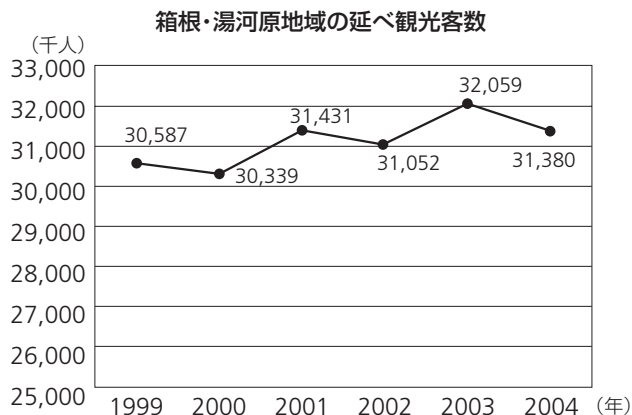


あしがり郷・瀬戸屋敷

- **富士箱根伊豆交流圏整備の推進** として、西さがみ地域の観光プロモーション活動や、富士箱根伊豆国際観光テーマ地区推進協議会が主体となった国際観光展への出展参加などに取り組みました。
- **県西地域の地域資源を生かした魅力ある地域づくり** として、市町施設整備事業に対する助成や地域情報の発信を行ったほか、酒匂川都市圏の活性化をめざした都市づくりを進めました。
- **道路網の整備推進** として、小田原環状道路などの幹線道路の整備に取り組みました。
- **交流拠点の整備促進** として、小田原駅周辺のまちづくりに取り組んだほか、大野山乳牛育成牧場のふれあい施設の整備を進めました。

- 【目標】**
- 山梨・静岡両県や圏域市町村との交流・連携を通じて、地域資源を生かした魅力ある地域づくりを進めます。
 - 交流・回遊性を高めるため、道路や橋りょうなどの整備を進めるとともに、人々のにぎわいや集いの場となる交流拠点の整備を進めます。

神奈川県入込観光客調査報告書（神奈川県観光振興対策協議会）によると箱根・湯河原地域（小田原市、南足柄市、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）の延べ観光客数（日帰り客数と、宿泊客数の合計）は1990年の39,026千人をピークに減少傾向にありましたが、ここ数年は横ばいの状況にあります。



<分析>

- ・ 地域の活性化の度合いを測る 1 つの指標として、観光客数の動向が考えられますが、その内訳を見ると、日帰り客数は若干の増減はあるものの増加する傾向がみられますが、宿泊客数は伸び悩んでいる状況があります。
- ・ このように、地域の活性化に向けた取組みの成果がはっきりとした形で現れてこない背景としては、地域づくりにおいて県西地域ならではの豊かな自然環境や歴史・文化などの地域資源が十分に生かされていないことや、交流・連携を支える交通ネットワークや交流拠点などの都市基盤整備が十分でないことのほか、経済状況の変化や余暇の過ごし方の多様化の影響などが考えられます。

<課題>

引き続き、富士箱根伊豆交流圏の山梨、静岡両県や圏域市町村と広域的な交流・連携の取組みを強化するとともに、県西地域の自然環境や歴史的遺産などの地域資源を生かした広域的な地域づくりを進める必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 酒匂川流域の都市づくりに関して、「自転車活用の推進」、「地域で進める協働の取組みの推進」や「自然・歴史・文化資源の保全と活用」などのご意見をいただきましたので、地域と協働してレンタサイクルの社会実験やまちなみマップの作成などに取り組みました。

<今後の対応方向>

- **富士箱根伊豆交流圏整備の推進** として、引き続き西さがみ地域の観光プロモーション活動や東アジアをターゲットとした外国人観光客の誘致に取り組みます。
- **県西地域の地域資源を生かした魅力ある地域づくり** として、引き続き市町施設整備事業に対する助成や地域情報の発信を行うほか、地域の方々と行政が一体となった協働の取組みにより、酒匂川流域の都市づくりを進めます。
- **道路網の整備推進** として、国道 1 号（小田原箱根道路）や小田原環状道路などの整備を引き続き進めるほか、酒匂川 2 号橋の整備に着手します。
- **交流拠点の整備促進** として、小田原駅の玄関口にふさわしい都市型ホテルやコンベンション施設などの複合施設の建設設計や、大野山乳牛育成牧場のふれあい施設を整備（2006年度完成予定）します。

◆かながわWEST 花と水の交流圏

<http://www.kanagawa-kankou.or.jp/hanamizu/>

◆西さがみ連邦共和国総合ポータルサイト

<http://www2.city.odawara.kanagawa.jp/saiyuki/>

◆酒匂川流域の都市づくり

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/tosikeikaku/sakawa/index.htm>

＜2005年度の取組みの概要＞

水源から良質な水の安定的供給が受けられるよう、公共下水道、合併処理浄化槽及び農業集落排水施設の生活排水処理施設整備を進めるとともに、ダム貯水池の水質浄化対策として、エアレーション*装置の稼働などによるアオコ*の大量発生を抑制に努めました。



桂川・相模川流域協議会の上下流交流事業

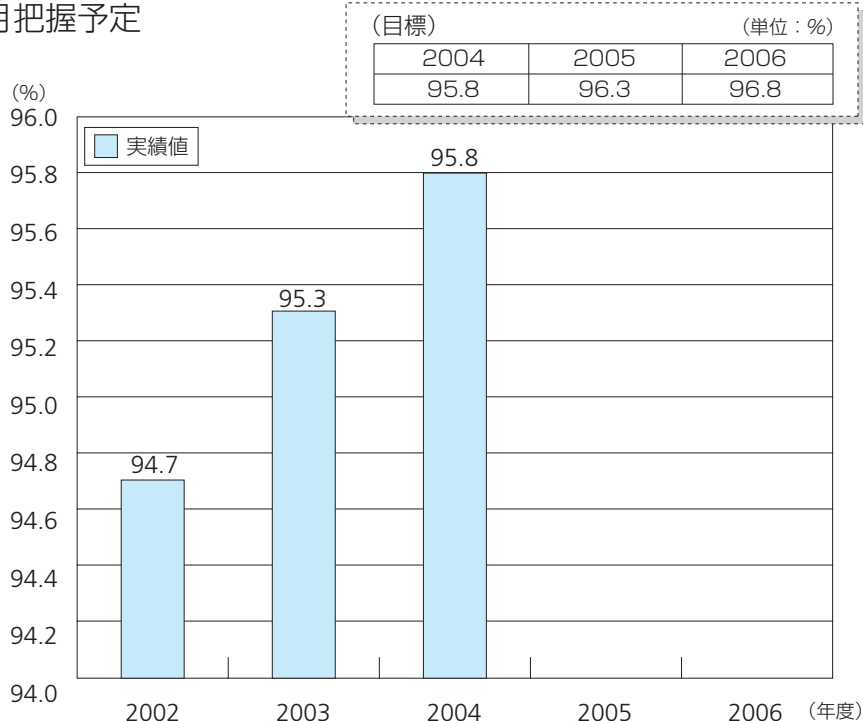
- **生活排水処理施設整備の促進** として、県内35市町村(政令市を除く)が行う公共下水道整備に対する補助、合併処理浄化槽の設置者に対する補助を行っている26市町に対しても補助を行いました。また平塚市が行う土屋地区の農業集落排水施設の詳細設計などに対して補助を行いました。
- **流域環境保全行動の推進** として、上下流交流事業やクリーンキャンペーンなどを実施するとともに、桂川・相模川流域協議会の中に、新たにさがみはら地域協議会を設立しました。
- **ダム貯水池の水質浄化対策の推進** として、4月から10月までエアレーション装置を稼働させ、アオコの大量発生を抑制しました。2004年3月に完成した津久井湖三井地区の植物浄化施設において、その効果検証を行い、また、他の施設の設計を実施しました。
- **ダム貯水池対策(ダム貯水池の堆砂対策)** として、相模ダムの有効貯水量の回復と上流域の災害防止などを図ることを目的として、堆砂の除去、施設の整備などを実施しました。また、三保ダムでは現地調査を行い、酒匂川水系土砂管理検討委員会の中で、堆砂対策の検討を実施しました。

【目標】生活排水処理施設整備率

生活排水処理施設整備率とは、公共下水道や合併処理浄化水槽などを利用して生活排水を衛生的に処理している人の全人口に対する割合です。

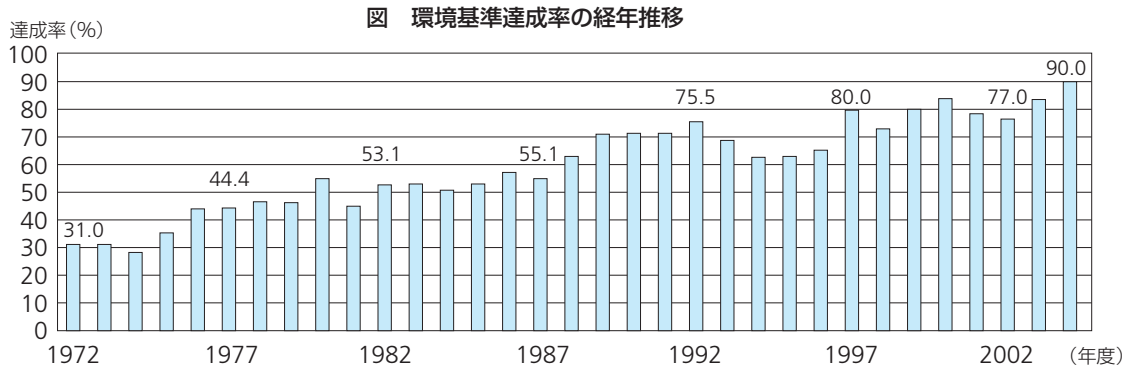
神奈川県生活排水処理施設整備構想の2010年度目標値98.26%を踏まえ、2006年度までの目標値を設定しました。

※2006年7月把握予定



<分析>

- ・ 河川などの水質に大きな影響を与える生活雑排水の処理は、下水道、合併処理浄化槽などの施設整備が進み、2004年度には、95.8%の整備率となっています。これは全国的に見ると、東京都、兵庫県に次いで全国第3位の整備率となっています。
- ・ しかし、市町村別に見ると、整備率100%の市がある一方で、50%を下回っている町もあるなどのばらつきが見られます。
- ・ 河川などの公共用水域の水質を見ると、環境基本法に基づく水質環境基準の達成状況は90.0%（2004年度）となっており、徐々に改善してきています（図参照）。



<課題>

ダム湖周辺の津久井地域などの整備率が低く、今後はこのような整備の遅れた地域をどのように改善していくかが課題となっています。

一方、水道の水質に影響のあるダム湖のアオコは、エアレーション装置の稼働などにより、発生が抑えられていますが、その原因となる富栄養化の要因物質（窒素・リン濃度）については、改善が進んでおらず、ダム湖へ流入する生活雑排水の処理施設の整備が課題となっています。

また、相模川や酒匂川の流域は、県外にも及ぶため、流域全体にわたって環境保全活動を推進する必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「地域特性に応じた整備が必要」とのご意見を踏まえ、下水道などの整備が適さない地域においては合併処理浄化槽の着実な整備を推進しています。

<今後の対応方向>

- **生活排水処理施設整備の促進** として、引き続き公共下水道の整備を支援するための補助を行うなど、生活排水処理施設整備構想に基づき、国と連携し市町村が進める生活排水処理施設の整備を促進します。特に、ダム湖周辺の整備率向上のため、かながわ水源環境保全・再生施策大綱及び実行5カ年計画に基づいた取組みを進めます。
- **流域環境保全行動の推進** として、相模川及び酒匂川の上流の山梨県・静岡県と連携し、流域環境保全行動を着実に推進します。
- **ダム貯水池の水質浄化対策の推進** として、引き続き同時期にエアレーション装置を稼働し、また、植物浄化施設を相模原市相模湖町沼本地区に設置します。
- **ダム貯水池対策（ダム貯水池の堆砂対策）** として、引き続き具体的な堆砂対策を実施します。

◆桂川・相模川流域協議会

<http://www.katura-sagami.gr.jp/>

◆酒匂川水系保全協議会

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/hozen/sakawa/>

<2005年度の取組みの概要>

水源地域の森林が、水源かん養など公益的機能の高い豊かで活力ある森林となるよう、荒廃の進む私有林の公的管理・支援*を推進し、適切に管理されている森林を拡大するとともに、県民と協働・連携して水源の森林づくりを進めるために、水源林の集いなどの普及啓発活動を行ったほか、森林ボランティア活動の支援を行いました。



かながわ森林インストラクター(左端)による間伐の指導

- **私有林の公的管理・支援の推進** として、森林所有者との整備協定や、森林の買取りなどを進め、新たに公的管理・支援をすることとした水源林は、目標の1,085haに対し1,119haを確保し、103.1%の進捗率となりました。また、これまで確保した水源林については、間伐やその他必要に応じて適切な手入れを行いました。
- **水源の森林づくり県民運動の推進** として、水源の森林づくりへの県民の理解と協力を得るため、水源林の集いや街頭キャンペーンなどに取り組み、普及啓発活動の開催回数は目標の5回に対し6回実施し、進捗率は120.0%となりました。

【目標】 水源の森林づくりで適切に管理されている森林面積 (累計)

2006年度までに8,700haを確保する現行計画を少しでも先に進めるよう、9,000haとすることを目標値として設定しました。

【目標】 森林づくりボランティア参加者数 (単年度)

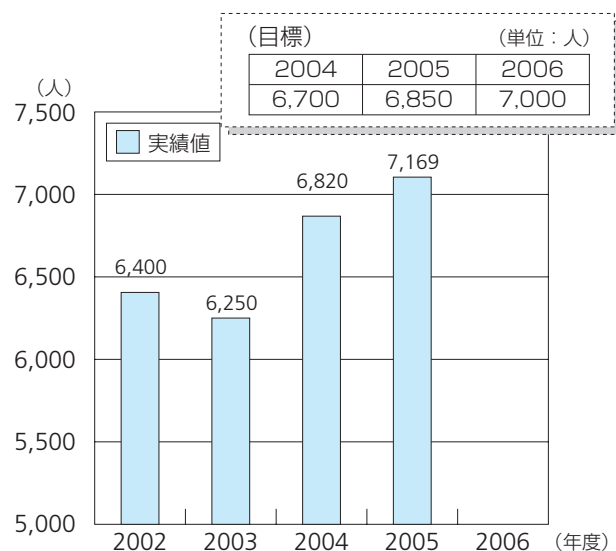
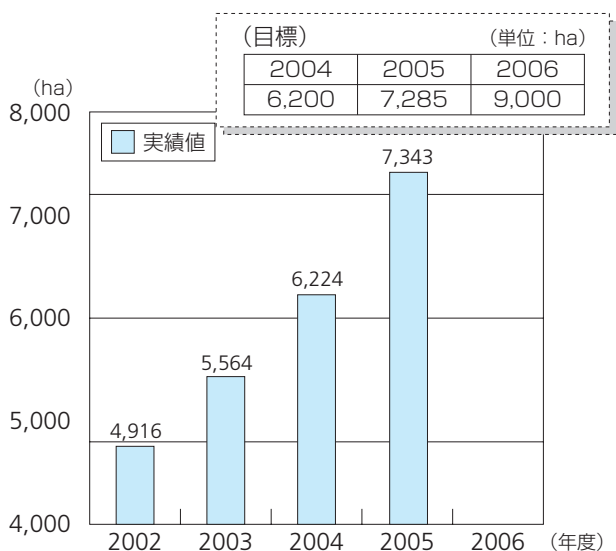
水源の森林づくりへの県民の理解と参加を促進するため、2002年度のボランティア活動実績(6,400人)を踏まえ、2006年度までに7,000人とすることを目標値として設定しました。

<達成状況：A>

水源の森林づくりで適切に管理されている森林面積は、7,343haで、2005年度の目標に対して100.7%の達成率となっています。

<達成状況：A>

森林づくりボランティア参加者数は、7,169人で、2005年度の目標に対して104.6%の達成率となっています。



<分析>

- ・ 荒廃が進む水源エリア内の私有林の適切な管理、整理を進め水源かん養など森林の持つ公益的機能の持続的な高度発揮を図るため、市町村や森林組合などの協力を得ながら森林所有者に働きかけた結果、目標を上回る面積の森林を確保することができました。
- ・ (社) かながわ森林づくり公社がこれまで実施してきた主として個人を対象とする公募型の森林づくりボランティア活動に加え、グループや団体などが自主的に行う森林づくりに対して指導者の派遣や道具の貸出し、活動経費の助成などの支援を行った結果、目標を上回る参加者数となりました。

<課題>

森林所有者の高齢化や不在地主の増加、相続による所有の細分化などにより、水源林の確保に多くの時間と労力が必要となってきていることから、水源林の確保体制をより強化するとともに、公的管理森林の面積や整備量も増大していくことから、より効果的、効率的な森林管理のしくみの構築や、林業労働力の確保・育成が課題となっています。

長年活動を行っている企業・団体などから、より自主的あるいはより高度な活動の支援要望や、小中高校から環境学習としての活動の支援要望も多くなってきており、多彩なニーズへの対応が課題となってきています。また、県内の人工林は林齢が高くなってきており、ボランティア向きの活動フィールドの確保が課題となっています。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「目標100%達成は目標が低いだけではないか。森林整備にもっと力を入れて欲しい。」というご意見をいただきましたが、私有林の公的管理・支援については、2005年度は前年度の約1.6倍の目標を達成し、今後もさらに取組みを拡充していきます。

<今後の対応方向>

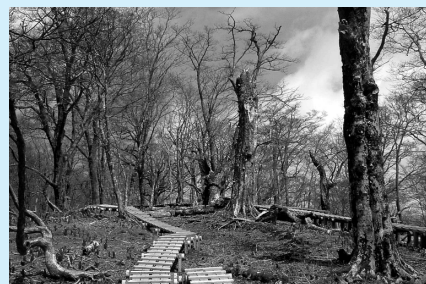
- **私有林の公的管理・支援の推進** として、森林や所有者の情報に明るい森林組合や市町村との連携を強化し、より効率的に水源林の確保を進めていきます。
また、より効果的、効率的な森林管理のしくみの構築や、林業労働力の確保・育成のための研修事業に取り組んでいきます。
- **水源の森林づくり県民運動の推進** として、引き続き普及啓発活動を行うとともに、県民からの多様なニーズに応えるため、企業・団体などの自主的活動や学校の環境学習への支援を強化するとともに、活動フィールドの確保に努めます。

◆かながわ水源の森林づくりホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sinrin/suigen/index.html>

＜2005年度の取組みの概要＞

ニホンジカの採食などにより劣化した林床植生*を回復するため、植生保護柵の設置や神奈川県ニホンジカ保護管理計画に基づく個体数管理を実施しました。また、オーバーユース*によるし尿処理対策として、環境配慮型トイレ*を設置しました。さらに、新たな自然環境管理システムを整備するため、2004年度に引き続き丹沢大山総合調査を実施しました。



ブナの立ち枯れの状況

- **自然環境管理システムの整備** として、自然環境総合調査を実施し、その結果を解析するとともに、第2次丹沢大山保全計画(仮称)の策定に向けた検討を行いました。また、自然環境保全センターの整備に必要な調査設計を行いました。
- **ニホンジカなどの保護管理の推進** として、秦野市ほか2町が実施する防護柵設置事業への支援を行いました。また、2004年度に引き続き、生息状況調査、植生状況調査などのモニタリング調査を行い、その結果を踏まえて884頭の計画を立て、狩猟・管理捕獲を実施しました。
- **ブナ林・林床植生の保全とオーバーユース対策** として、ブナ林衰退機構解明のための調査・分析を継続しながら、林床植生が衰退した地域への植生保護柵の設置や環境配慮型トイレの設置に取り組み、2005年度の植生保護柵は目標の8.5haに対し5.1haを設置し、環境配慮型トイレは目標どおり1か所設置しました。

【目標】 植生劣化レベルV*の管理ユニット数* (単年度) ※1

丹沢大山自然環境総合調査及び神奈川県ニホンジカ保護管理計画策定のために実施した基礎調査の結果から、丹沢大山地域を尾根や沢などの地形に考慮して、56の管理ユニットに細分化し、植生の劣化の度合いによりⅠ～Ⅴに分類しています。このうち、植生劣化レベルがⅤとなっている2ユニットを2006年度までにレベルⅣに引き上げることを目標値として設定しました。

(現状)	(目標)		
2002	2004	2005	2006
2	-	-	0

(単位：ユニット)

※1…4年に1回の調査のため、2007年3月の調査結果により実績を把握します。

<分析>

- ・ 2002年度に植生劣化レベルⅤであった2か所の管理ユニットについては、2005年度現在劣化レベルの変化はありませんでした。その理由としては、まだ十分な範囲まで植生保護柵が設置されていないこと、また、植生保護柵やニホンジカの個体数管理の効果を短期間のうちには確認できないことなどが挙げられます。

表 植生劣化レベルの状況(2002年)

(単位：ユニット)

I	II	III	IV	V
27	19	5	3	2

神奈川県ニホンジカ保護管理計画より

<課題>

今後も植生保護柵の設置や神奈川県ニホンジカ保護管理計画に基づく個体数管理を、継続して実施していく必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 丹沢大山総合調査は、県機関のほか企業・NPO*など多様な主体で構成される実行委員会形式で実施しています。また、地域の獣害被害の状況及び対策ニーズを踏まえて、広域獣害防止柵の設置や管理捕獲を実施するとともに、登山者のニーズに対応しつつ、自然環境の保全を図るため、環境配慮型トイレを設置しています。

<今後の対応方向>

- **自然環境管理システムの整備** として、丹沢大山総合調査の結果を踏まえ、県民と連携した新たな自然環境管理システムの構築に向けて取組みを進めていきます。
- **ニホンジカなどの保護管理の推進** として、ニホンジカ保護管理計画に基づき、捕獲による個体数管理に取り組みます。
- **ブナ林・林床植生の保全とオーバーユース対策** として、ブナ林衰退機構解明のための調査・総合解析を行います。希少植物のある場所については、植生保護柵を設置し、植物の保護を推進するほか、2005年度に引き続き、2006年度も土砂流出の著しい急傾斜地において、植生回復のための保護柵と複数の工法を組み合わせた多様な土砂流出防止工法についてパイロット事業として取り組みます。

◆丹沢大山保全活動ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/1644/tanzawa.html>

◆神奈川県自然環境保全センター

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/1644/main.html>

<2005年度の取組みの概要>

水源地域の情報を総合的に発信するホームページ「神奈川やまなみ五湖ナビ」を新たに開設し、地域に密着した情報発信に取り組むとともに、物産・観光プラザ「かながわ屋」での水源地域特産品「やまなみグッズ」の取扱品目増加に取り組みました。また、水源地域の活性化と水源環境の理解促進を目的とした改訂水源地域交流の里づくり計画を策定しました。



里山自然体験交流教室(竹細工体験)

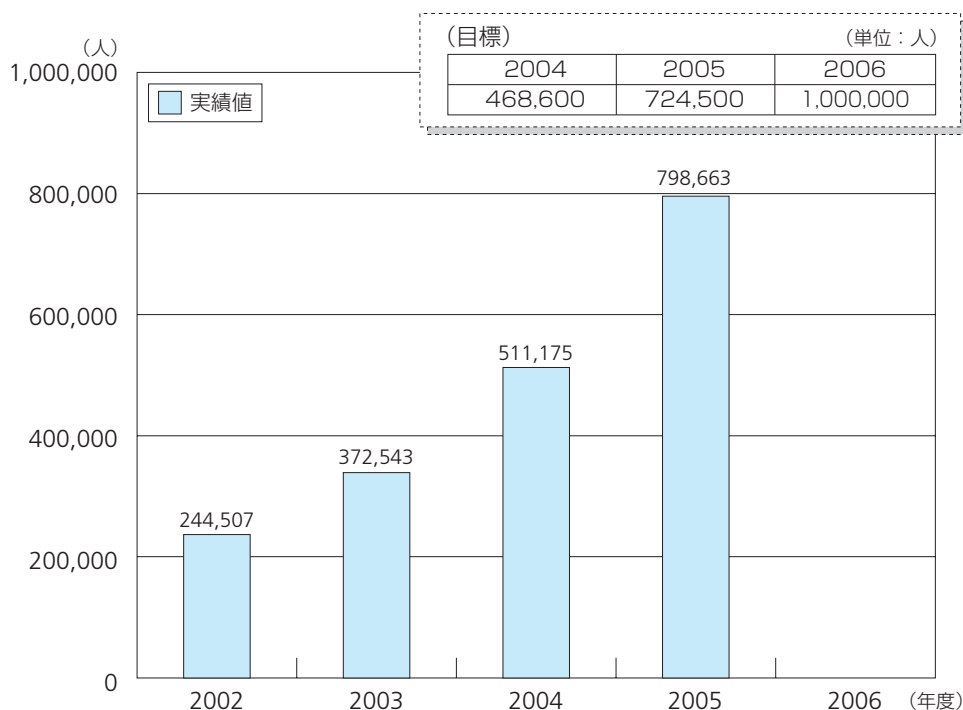
- **水源地域交流の里づくり** として、水源地域住民主体で実施される、交流の里文化祭や自然体験交流教室、里の名人・匠との出会い・ふれあい事業などの「交流の里イベント」を開催するとともに、里のコーディネーターの育成などを行いました。
- **水源地域上下流間交流の促進** として、県内の三大水道事業者（横浜市、川崎市、横須賀市の各水道局）をはじめとした下流10市との体験交流事業などを実施し、2005年の交流事業の回数は、目標16回に対し16回実施し、進捗率は100.0%でした。
- **交流基盤の整備** として、水源地域住民と都市地域住民との交流の拠点となる藤野町和田の里体験センター村の家をはじめとした交流促進施設の整備に対して支援を行いました。

【目標】水源地域交流イベントなどへの参加者数(累計)

水源地域で開催される交流イベントの参加者数や交流促進施設、情報提供施設の整備計画を踏まえたこれらの施設の利用者数の2001年度から2006年度までの累計を100万人とすることを目標値として設定しました。

<達成状況：A>

2001年度から2005年度までの水源地域交流イベントなどへの累計参加者数は798,663人で、2005年度累計目標の724,500人に対し、110.2%の達成状況となっています。



<分析>

- ・ 水源を育む自然環境は、水源地域にクラス人々が、地域に根ざした農林業や観光業など環境への負荷の少ない産業に携わることにより保全されてきました。しかし、近年、水源地域をとりまく農林業は、木材・農産物価格の下落、国際的な競争の激化、就業者数の減少などにより衰退しつつあり、また、水源地域の人口の減少・高齢化の進展、レジャーの多様化による観光客数の伸び悩みなどにより、水源地域の活力は徐々に失われてきています。
- ・ このようなことが要因となり、手入れ不足の人工林が増加し、森林が荒廃することによって、生態系の喪失や土壌流出、水源かん養機能の低下を招いており、水源環境は悪化しています。

<課題>

先人達の努力により確保された本県の貴重な水源環境を、次世代にしっかりと引き継いでいくためには、水源地域に根ざした産業が活性化し、地域に生活する人々が誇りと愛着を持ち続けながららせる、活力のある地域づくりを進めていく必要があります。

また、豊かな水源環境を保全・再生していくことは、水源地域住民の努力だけでは困難な状況となっており、水の恵みを受けている下流域の都市地域住民の理解と協力、さらには積極的な参加が必要不可欠となっています。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「水源地域交流の里づくり計画」の改訂にあたり、「水源地域交流の里づくり計画改訂素案」に関する県民意見の募集を行い、ご意見などを改訂計画に反映させていただきました。

<今後の対応方向>

- **水源地域交流の里づくり** として、水源地域の活性化を図るため、交流事業の開催回数を増やし、交流人口の拡大を図るとともに、陶芸、竹細工などの講師や自然観察会のインストラクターなど、都市地域住民との交流の担い手となる人材の育成に取り組みます。
- **水源地域上下流間交流の促進** として、体験交流事業の開催回数を増やすとともに、水源地域・水源環境への理解を深めていく水源環境学習のメニューを取り入れ、上下流域住民の交流を強化するとともに、水源地域の魅力ある自然・歴史・文化などを生かした体験型観光の事業化に取り組みます。
- **交流基盤の整備** として、(仮称)城山町小倉橋ふれあい親水広場など水源地域市町村が実施する交流促進施設の整備に対して支援を行います。

◆「やまなみ五湖ナビ」

<http://www.suigen.jp/>

＜2005年度の取組みの概要＞

都市にうるおいを与えるとともに人々のいこいの場となるみどりのオープンスペースを確保するため、県立都市公園を整備するとともに、市町村の都市公園整備を支援しました。また、身近な緑地を保全するために、法令に基づいた緑地の指定や買入を行うとともに、かながわトラストみどり基金*や緑化協力金*を活用した買入・借入を行い緑地の保全を推進しました。



里山モデル地区における保全活動

さらに、農家、都市住民、市町村などの共同・連携により里山の保全にも取り組みました。

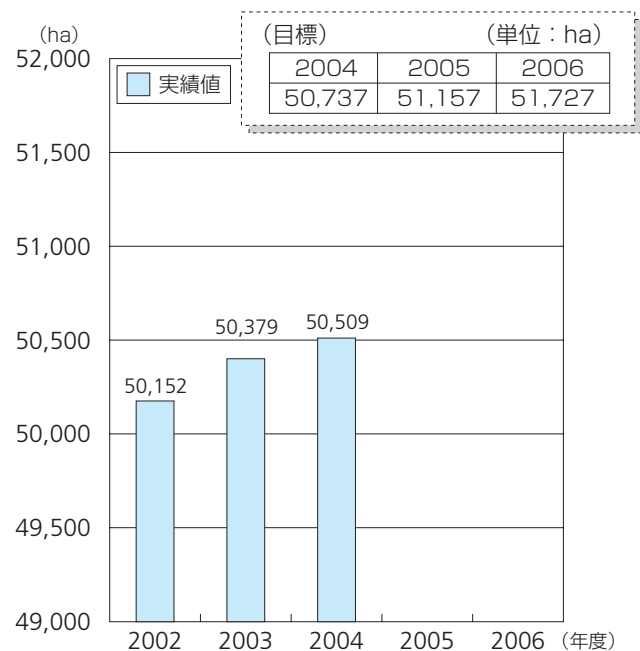
- **魅力ある都市公園などの整備** として、県立おだわら諏訪の原公園などの整備を推進し、約15haを開設しました。
- **身近なみどりの確保** として、小網代の森(三浦市)の小網代近郊緑地保全区域の指定など緑地の保全に取り組み、緑地の保全の目標の46,707haに対して、46,481haとなり、進捗率は99.5%でした。
- **里山づくりの推進** として、小松・城北地区(城山町)や名古屋地区(秦野市)など6つのモデル地区において、地域住民が主体となった里山の保全活動を推進しました。

【目標】市街地におけるみどりのスペース(累計)

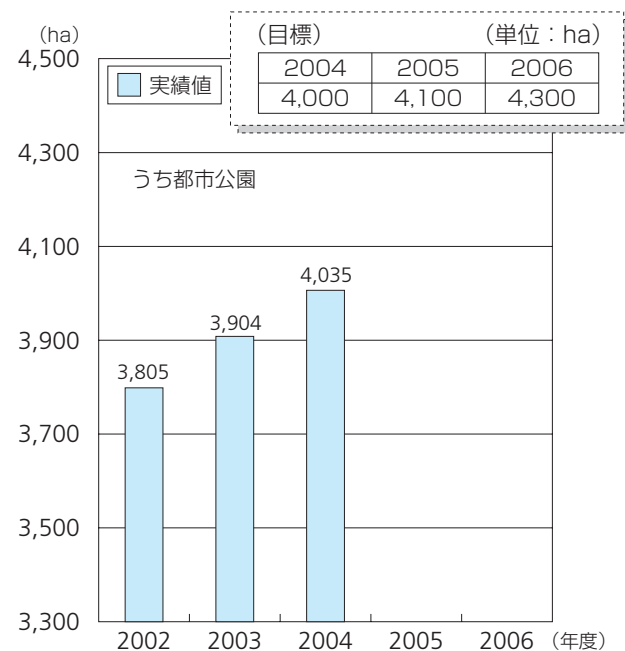
みどりのスペースとは、都市公園(県、市町村整備面積)、トラスト緑地*、地域制緑地*(自然公園と保安林を除く)などの面積で構成されるものです。

2002年度のみどりのスペース(50,152ha)を各構成要素ごとに分析・検討し、2006年度までに51,727haにすることを目標としました。

※2006年8月把握予定



※2006年8月把握予定



<分析>

- ・ 都市公園整備に取り組んでいる県及び市町においては、その目標達成に向けて、新たな手法に取り組むなど、効果的な事業展開を図っています。
- ・ 身近なみどりの確保については、2005年度は、近郊緑地保全区域などの地域制緑地として93haが指定されましたが、土地の用途変更などにより、7haの増加にとどまりました。
- ・ 里山づくりの推進については、モデル地区数は目標を1地区下回りましたが、地域住民などが里山の保全活動に積極的に取り組む地域が見られるなど、協働による活動が着実に広がりつつあります。

<課題>

従来の県立都市公園整備の手法のみでは、防災・景観・自然とのふれあい・緑の再生・地域交流の場づくりなどの県民要求に応えられないことが危惧される一方で、都市公園と同等のみどりの保全・活用効果をもたらす公園的手法が新たに生まれつつあり、それらの手法の整理や検討による取組みの推進が必要となっています。

また、県内では、宅地などの開発により里山の雑木林などが減少するとともに、後継者不足などによって荒廃が進んでいる例もあり、みどりの質的・量的な保全と創出が急務となっています。

里山づくりには、継続的な取組みが必要であることから、多様な主体による里山づくりを進めていくための施策を検討していく必要があります。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「身近に親しめる緑や水辺があること」が求められていることから、引き続き、都市と里山のみどりの保全と活用に向けた取組みを進めます。また、幼児から高齢者までが、安心して利用できる公園整備に寄せる期待が増していることから、引き続き都市公園の整備に取り組んでいきます。

<今後の対応方向>

- **魅力ある都市公園などの整備** として、様々な事業手法を活用して、引き続き県立都市公園を整備するとともに、市町村の都市公園整備を支援します。
- **身近なみどりの確保** として、神奈川みどり計画に基づき、みどりの量とともに質的な確保を図るため、法令に基づく指定による保全など、県民、NPO*、市町村などと連携して取り組めます。
- **里山づくりの推進** として、引き続き地域の実情にあわせた里山の保全と活用の推進を図るとともに、多様な主体の協働による管理活用のしくみづくりに向けた条例の制定について検討を進めます。

◆神奈川県公園協会

<http://www.kanagawa-park.or.jp/>

◆(財)かながわトラストみどり財団

<http://park2.wakwak.com/~k-trust/html/news/waku.html>

◆神奈川みどり計画

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ryokusei/midorikeikaku.html>

＜2005年度の取組みの概要＞

相模湾沿岸の地域資源の保全、活用と発信を図るため、地域の魅力を高めるための構想（さがみ湾文化ネットワーク構想）を、4つのテーマによるワークショップの開催など、市町や県民・NPO*などとの協働・連携により策定しました。また、自然環境、歴史・文化の保全などを進め、地域資源を生かした取組みを進めました。



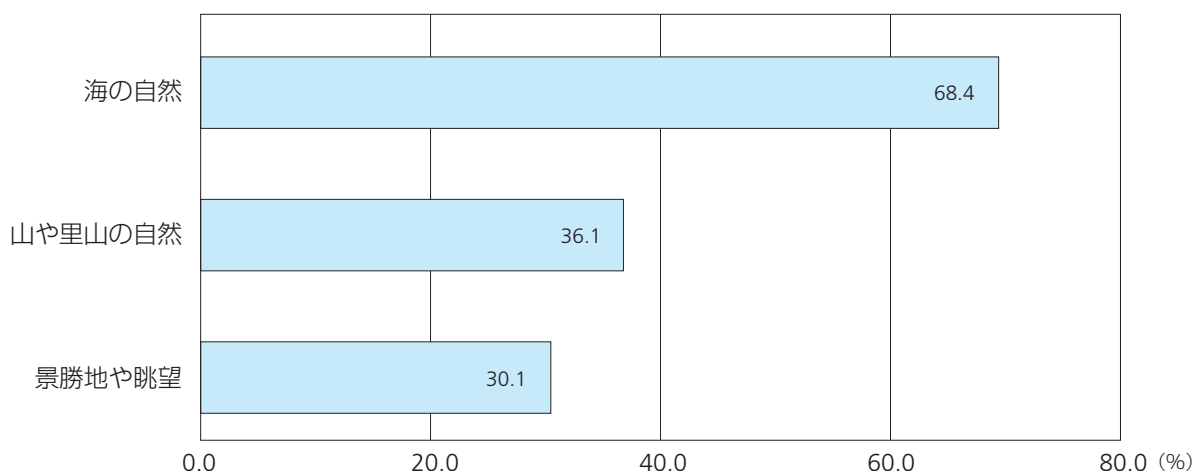
ワークショップの報告会

- **歴史・文化、景観の保全と再生** として、近代建造物と邸園を保全活用した地域づくりや、景観まちづくりなどのため、調査、検討を行いました。
- **自然環境の保全と再生** として、8.5haの砂防林の保護、育成のため、間伐や苗の育成などの整備を行ったほか、NPOなどとの協働によるアマモ*場造成のマニュアルを作成するとともに、海岸美化・キャンペーンを延べ84会場で、20,432人の参加を得て、実施しました。
- **地域資源を生かした観光や産業の展開** として、三浦半島地域の誘客宣伝のためのプロモーション活動を実施したほか、片瀬漁港の水産物荷捌き施設の整備に対して支援を行うとともに、真鶴町漁協の都市漁村交流活動への取組みを支援しました。

【目標】 相模湾沿岸の地域資源を守り、生かし、発信するために、市町や県民、NPOなどとの協働・連携により、地域の魅力を高めるための検討、調査を行います。また、自然環境、歴史・文化の保全などを進めて、地域資源を生かした魅力ある地域づくりをめざします。

地域の魅力を高めるための検討、調査の一環として、県民などのニーズ調査^{※1}を実施しました。沿岸地域の住民にとって、地域の魅力として次世代の人に伝えたいものやことは、次のようになっています。

相模湾沿岸地域の魅力（次世代の人に伝えたいものやことの上位3つまでを抽出）



※1 ニーズ調査…平成17年度相模湾沿岸地域の構想づくりの基礎資料とするための調査

<分析>

- ・ 相模湾沿岸地域では、様々な市民活動団体が、歴史的遺産や近代建造物などを活用したイベントの開催、海岸・道路・河川などの美化活動、景観やまちづくりに関するフォーラムや学習会の開催など様々な活動を活発に行い、地域資源を保全・活用した取組みを進めています。
- ・ また、豊かな自然、温暖な気候、都心への利便性などから、近代に入り、別荘地・保養地として脚光を浴びるなど豊かな地域資源に恵まれている地域です。これらの近代に建てられた別荘は、現在では歴史的建造物やみどり豊かな庭園として、良好な景観を形成するなど地域の魅力の一つとなっています。しかし、こうした地域の魅力が都市化の進展などにより失われつつあります。

<課題>

沿岸地域の豊かな自然環境、貴重な歴史・文化、特筆すべき景観を守るためには、県民共有の財産として守り、生かしていくとともに、神奈川の持つ魅力、地域の持つ魅力として相模湾沿岸で育まれた文化を内外に発信していく必要があります。

このため、地域資源を守り、生かし、発信する三つの調和ある取組みを進めていくことが求められています。

～県民ニーズ・意見などへの対応～

- ★ 「市民活動の活発な相模湾沿岸地域においては、地域づくりに市民活動を生かしていく必要があるので、広報と場づくりを積極的に行うことが重要」とのご意見をいただきましたが、県としてはインターネットやシンポジウムを活用し、広報と場づくりを実施していきます。

<今後の対応方向>

- **地域資源を生かした魅力ある地域づくり** として、さがみ湾文化ネットワーク構想に位置づけられた5つのモデル事業を実施します。
- **歴史・文化、景観の保全と再生** として、近代建造物と邸園を保全活用した地域づくりのため、モデル事業を実施するほか、新しい都市公園のあり方の基本計画を策定し、景観まちづくりのため、広域景観づくりの指針を策定します。
- **自然環境の保全と再生** として、引き続き、砂防林の保護、育成を行うほか、葉山町でのアマモ場造成を支援し、海岸美化・キャンペーンを実施します。
- **地域資源を生かした観光や産業の展開** として、引き続き、三浦半島地域の誘客宣伝のためのプロモーション活動を実施するほか、片瀬漁港の水産物鮮度保持施設の整備に対して支援を行うとともに、真鶴町漁協、葉山町漁協、鎌倉漁協及び腰越漁協が実施する都市漁村交流活動への取組みを支援します。
- **海辺の魅力を高めるまちづくりの推進** として、真鶴港、葉山港、湘南港、大磯港において、みなとまちづくり協議会を中心に、みなとを拠点としたまちづくりを推進します。

◆さがみ湾文化ネットワーク構想について

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seityo/sagamiwan/kousou.htm>